



おおつき かつふみ

◆診療科紹介 周産期センター長 准教授 大槻 克文

江東区初、東京都区東南部地域初の周産期センター

当院の周産期センターは江東区初、東京都区東南部地域初の周産期センターとして誕生しました。東京都内には総合周産期センターが13施設、地域周産期センターが12施設認定されております。母体救命搬送以外の母体搬送および新生児搬送については、都内を8つのブロックに分け、各ブロックにおいて総合および地域周産期センターが搬送受け入れ及び担当ブロック内の搬送調整を行っています。当院が所属するのはその8つのブロックのうち東部地域であり墨田区、江戸川区、江東区が含まれます。なお、当院開院前までは東部地域にはNICUを併設する周産期センターとしては総合周産期センターである都立墨東病院、そして地域周産期センターである賛育会病院の2施設のみ（共に墨田区内のみ）でした。江東区は東京都内でも人口及び出生数の増加が著しく、必然的に周産期医療の充実が望まれる状況となっております。



昭和大学江東豊洲病院

第4号のトピックス

- ・ 診療科紹介
— 周産期センター —
- ・ 部門紹介
— 放射線室 —

「周産期」とは

「周産期」とは、妊娠22週からの妊娠期間と生後満7日未満まで新生児期間をいい、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児および新生児の生命に関わる急変事態が発生する可能性があります。周産期を含めた前後の期間における医療は、突発的な緊急事態に備えて産科・小児科をはじめとして様々な診療



科による協働体制が必要であることから、特に「周産期医療」と表現されています。当院ではこの定義通り産婦人科のうち産科部門と小児科の新生児部門を統括して「周産期センター」としています。

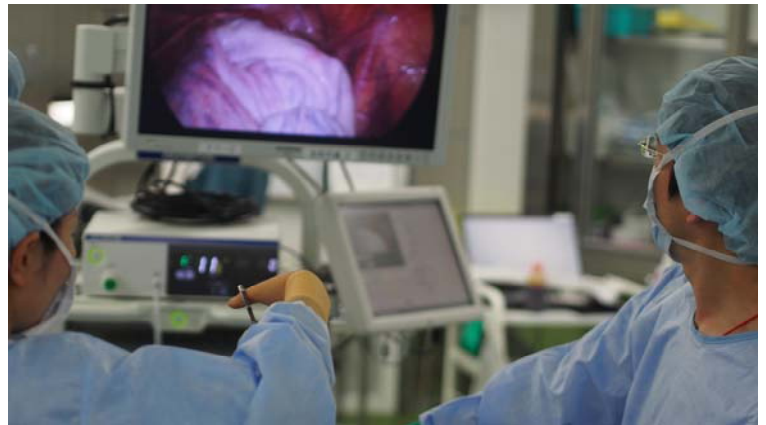
「快適で安全・安心な妊娠と出産」を目指して

さて、前置きが長くなりましたが、当院周産期センターの紹介をさせていただきます。周産期センターとしての病床は5階に位置しています（5A病棟）。30床の入院病床（4人床室5室、個室10床）があり、そのうち7床は感染症合併妊婦の収容が対応可能な陰圧個室となっています。さらにLDR室が5室あり最新の超音波断層装置、分娩に必要な充実した機器等を備え、ハイリスク分娩に対応が可能となっています。LDRとはLabor（陣痛）、Delivery（分娩）、Recovery（回復）の頭文字を取ったもので、LDRでは陣痛発来から分娩および分娩直後数時間を同じ部屋で過ごすことができます。また、（超）緊急帝王切開（Grade A帝王切開）の際には分娩台自体がストレッチャーとなり、周産期病棟専用エレベーターで直下の手術室へ数分以内に移動することが可能となっています。この緊急帝王切開の際の動線の短さは昭和大学附属病院だけでなく、都内周産期センターの中でも誇れるものであります。



開院にあたっては周産期センターの医療スタッフとして、10名の産婦人科医師（うち9名は産婦人科専門医）と17名の助産師、産科の医療事務に精通したベテランの事務スタッフでスタートを切りました。開院して3ヶ月が経過した時点でも徐々に増員をはかっております。スタッフ全員で「快適で安全・安心な妊娠と出産」を目指し、ハイリスク妊婦さんを含めた様々な患者さんの受け入れに常時備えています。

なお、産婦人科としては産科だけでなく女性の一生を通して生じる様々な婦人科疾患(子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮内膜症、月経不順、月経困難症、更年期障害・骨粗鬆症など)にも対応しています。



産婦人科、特に産科では分娩時急変事態に際してはいかに速やかかつ円滑に業務を遂

行できるか否かが重要です。病棟内スタッフ同士だけでなく、地域の先生方とのコミュニケーションも良好で、「顔の見える関係、心が通じる関係」を心がけています。

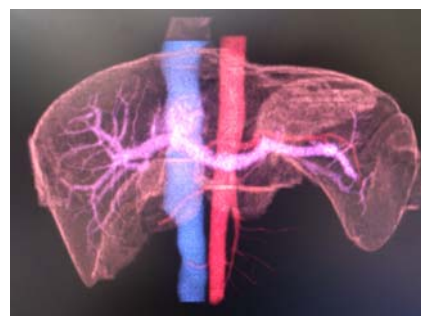
今後、地域周産期医療の向上のために、また、昭和大学の名に恥じぬようスタッフ一同精一杯頑張ります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



周産期センター医師（前列右から二人目大槻先生）

部門紹介 放射線室 技師長 崔 昌五

江東豊洲病院開院時の3月24日には、放射線科医師3名、看護師5名、診療放射線技師11名、計19名にて業務を開始しました。診療放射線技師に関しては、4月から15名体制、7月からは19名体制にて放射線検査・治療業務を行っています。



肝臓の血管

7月現在稼働している放射線検査・治療装置は、一般撮影装置2台、乳房撮影装置、パノラマ撮影装置、CT装置2台、MRI装置2台、血管撮影装置2台、透視装置、移動型X線撮影装置3台、移動型透視装置、SPECT装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、放射線治療計画用CT装置です。

診療放射線技師の業務は、チーム医療の一員として患者の全身状態を観察しながら、医療放射線の質と量・整位・撮影プログラムを決定し、適切な放射線検査を行い、診断に有用な画像の提供を行うことです。また、がん治療を目的とした放射線治療および全ての検査・治療における放射線被ばく相談を実施することです。

最後に、放射線部として、病院の基本理念のもと、女性と子どもにやさしく、安全に検査・治療を受けられ、患者本位の医療および地域医療に貢献できるよう日々努めてまいりますので宜しくお願い致します。

編集後記 消化器センター 横山 登

4年に一度のサッカーの祭典・FIFAワールドカップが、ブラジルで開催されました。16年前英国留学時代にフランスのワールドカップを友人（ブラジル人）と観戦に行ったことが思い出されました。そのころ私はサッカー（英国ではフットボール）にあまり興味がありませんでしたがそのワールドカップ観戦以来サッカー観戦が好きになり留学から帰国後の日韓共同開催のワールドカップも観戦しました。久しぶりにサンパウロに在住の友に連絡をしたところ国を挙げて大いに盛り上がっていることを聞き、さすがのサッカー大国だと改めて実感しました。多くの人々が観戦に訪れ賑わっていると聞きました。また、各国の代表選手が熱い戦いをしている競技に、世界中の人々が私をふくめて眠い目をこすりながら朝早くから観戦し感動を与えてくれました。前回の南アフリカ大会では、日本勢はベスト16に入りましたが、今回は健闘むなしく予選敗退に終わってしまいました。ワールドカップ開催中の4週間応援のあまり寝不足になり体調を崩した方もおられると思いますが、これからが夏本番、蒸し暑い日が続きますので自己管理しながら夏を乗り切りましょう！！



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000（代表）

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真

